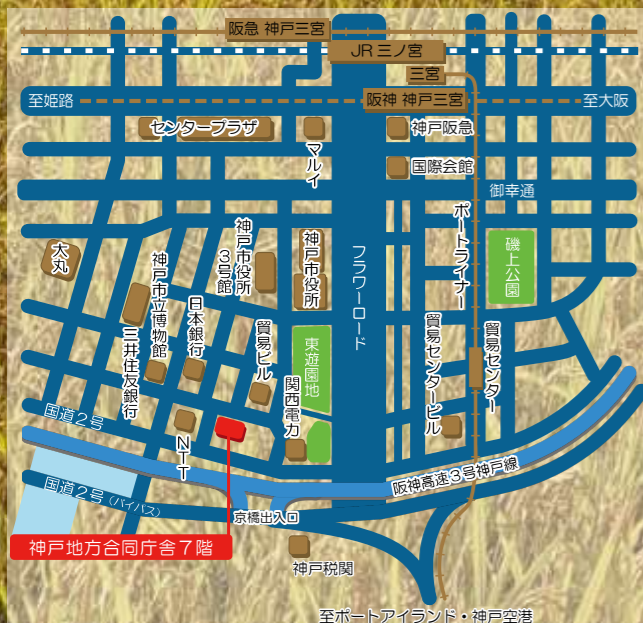




国営明石海峡公園

Akashi Kaikyo National Government Park



■公園計画・整備についてのお問い合わせ
 国土交通省 近畿地方整備局 国営明石海峡公園事務所
 〒650-0024 神戸市中央区海岸通29番地 神戸地方合同庁舎7階
 TEL(078)392-2992 FAX(078)392-2995
 e-mail:kkp-info-akashi@mlit.go.jp ※フリーメールからは送信できない場合があります
<http://www.kkr.mlit.go.jp/akashi/>

■国営明石海峡公園 淡路地区(淡路島国営明石海峡公園)のご利用についてのお問い合わせ
 国営明石海峡公園 明石海峡公園管理センター
 〒656-2306 兵庫県淡路市夢舞台8-10
 TEL(0799)72-2000 FAX(0799)72-2100
<http://awaji-kaikyopark.jp/>

■国営明石海峡公園 神戸地区(あいな里山公園)のご利用についてのお問い合わせ
 国営明石海峡公園 神戸地区管理センター
 〒650-1104 兵庫県神戸市北区山田町藍那字田代
 TEL(078)591-8000 FAX(078)591-8001
<http://kobe-kaikyopark.jp/>

国営明石海峡公園

「自然と人との共生、人と人との交流」

設置目的

国営明石海峡公園は、明石海峡を挟んで、兵庫県淡路市の『淡路地区』と神戸市北区・西区の『神戸地区』の2地区で構成され、全体計画面積330ha、全国で16番目に都市計画決定を行ったイ号国営公園です。

近年の余暇時間の増加に伴う、主として近畿地方の広域レクリエーション需要の増大に対処するため設置する大規模公園であり、併せて明石海峡大橋を中心とした明石海峡周辺地域の広域レクリエーションゾーンの形成に寄与するもので、平成5年度より整備着手しました。

淡路地区（淡路島国営明石海峡公園）と神戸地区（あいな里山公園）

淡路地区は、かつて緑を失った大規模な土取り場跡地の自然を回復し、立体的で多品種の花壇デザインによる美しい花の景色を創出することで花の島・淡路島を代表する観光の中心的な施設となり、周辺施設と連携を図りながら整備を進めています。

神戸地区では、数百年に渡って農業空間として維持されてきた豊かな里山が、燃料革命や生活スタイルの変化により手入れがされなくなり、ネザサやツル等が繁る荒れた状態であったものを公園整備で人の手を加え、里山里山の典型的な景観を甦らせています。



(淡路地区)



(神戸地区)

国営明石海峡公園の位置

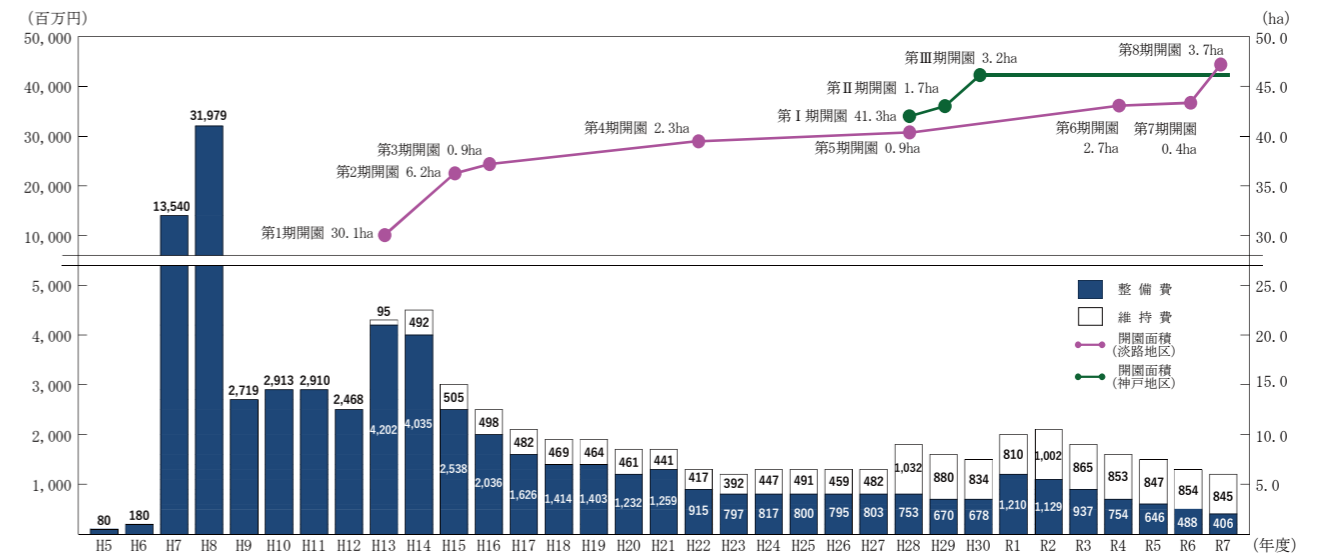
国営明石海峡公園は、兵庫県内、近畿各方面からの利用の他、全国及び世界各国からの利用を想定し、近隣施設との連携を図りながら、日帰り型及び宿泊型のレクリエーションに対応することを目指しています。



事業経緯

昭和51年度	都市公園等整備緊急措置法及び都市公園法の一部を改正する法律(国営公園制度)施行
平成2年度	都市公園法施行規則改定により、関東と近畿に2番目のイ号国営公園の設置が可能になる
平成2年度	大規模公園の基本構想の検討(候補地抽出)
平成3年度	国営明石海峡公園(仮称)基本構想及び周辺地域計画策定(候補地選定)
平成4年4月	明石海峡周辺地区での大規模公園調査が公園事業調査費で認められる(基本構想)
平成5年4月	国営明石海峡公園の事業化
平成6年12月20日	淡路東浦都市計画公園・淡路島公園(国営明石海峡公園(淡路地区))都市計画決定
平成8年3月11日	国営明石海峡公園(淡路地区:文化交流ゾーン、海岸ゾーン)事業承認
平成9年2月28日	神戸国際港都建設計画公園・しあわせの森(国営明石海峡公園(神戸地区))都市計画決定
平成9年3月14日	国営明石海峡公園(神戸地区)事業承認
平成9年3月25日	建設大臣が事業者として国営明石海峡公園を設置すべき区域を決定
令和5年3月17日	国営明石海峡公園(淡路地区:展望ゾーン)事業承認

事業費の推移



全国の国営公園

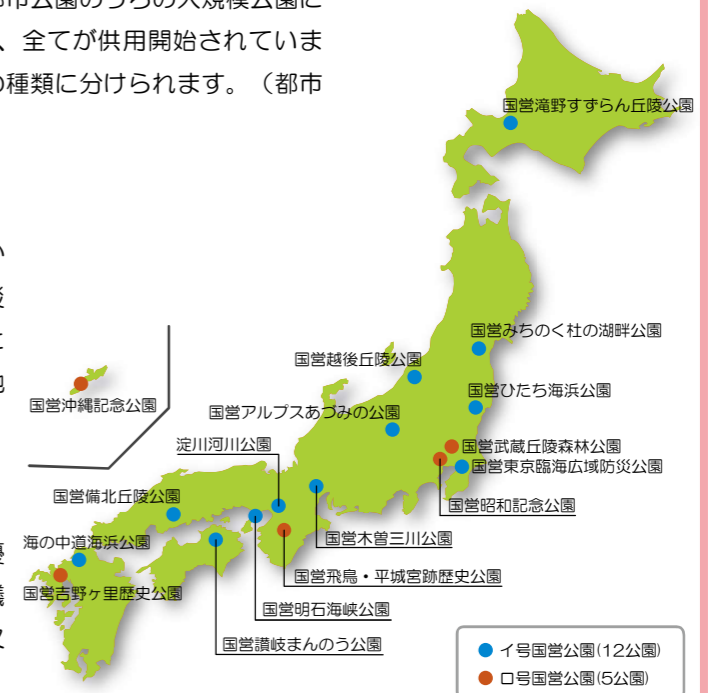
国営公園は、国の設置する営造物公園として都市公園のうちの大規模公園に位置づけられ、現在全国で17箇所が事業化し、全てが供用開始されています。国営公園は、その設置の趣旨から次の二つの種類に分けられます。(都市公園法第2条第1項第2号)

◆イ号国営公園

一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地(災害時に広域的な災害救援活動の拠点となるものとして国が設置する都市公園と国が設置するその他の都市公園に分けられる)

◆ロ号国営公園

国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地



淡路地区

計画面積 96.1ha 供用面積 47.2ha

コンセプトは「海辺の園遊空間」

約100haの大規模な土取り跡地の自然を回復し、国際的でリゾート感溢れる海辺の園遊空間を創ります。

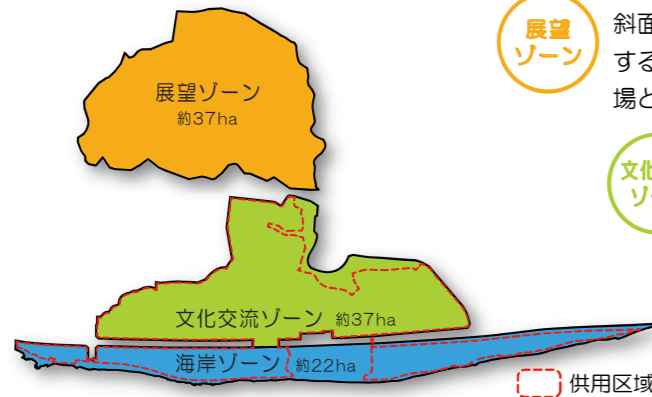


(平成6年撮影)

基本テーマ

1. 自然回復と望ましい環境形成を目指します
2. 「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと園遊空間の場づくりを図ります
3. 21世紀の快適な都市づくりとライフスタイルに新たな提案を行います
4. 周辺との連携で核となる整備を図ります

ゾーニング



展望ゾーン
斜面緑地を保全しつつ、篝場山からの大阪湾の眺望を中心とする展望点を整備するとともに、林間のレクリエーションの場とします。

文化交流ゾーン
瀬戸内海や淡路島の自然・歴史・文化を基調としながら、国際交流にふさわしい庭園的(園遊)空間を整備します。

海岸ゾーン
海辺の開放的な空間を活かしたレクリエーション利用の場とし、広域観光の拠点を整備します。

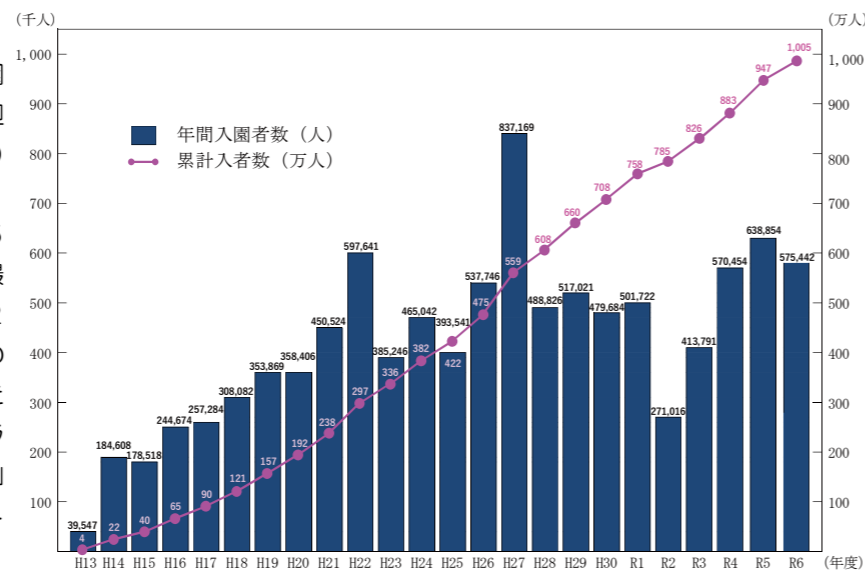
整備状況

淡路地区は隣接施設と連携を図りながら整備を進めており、平成12年3月から同9月までの期間には国際園芸・造園博「ジャパフローラ2000」が開催され、平成14年3月21日に文化交流ゾーン、海岸ゾーンの各一部(30.1ha)を供用開始しました。令和4年7月には国営公園で初めて、Park-PFI事業の計画が認定された海岸ゾーン「シースケープ・ラウンジ」エリアを追加供用し、また、令和7年3月に淡路口駐車場の一部(0.4ha)、令和7年5月に海岸ゾーン「シースケープ・フィールド(北側)」(3.7ha)を追加供用し、計画面積の約49%となる47.2haを開園しています。引き続き海岸ゾーン「シースケープ・フィールド(南側)」など全エリアの開園に向けた整備を進めていきます。

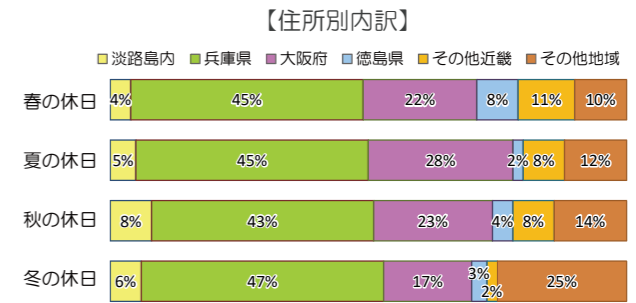
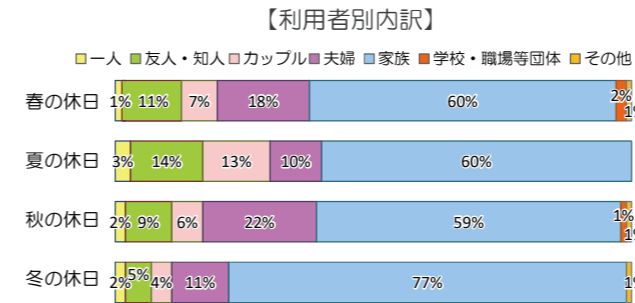
年間利用者数

平成14年3月21日に第I期開園し、令和4年3月に開園20周年を迎え、令和6年度には累計入園者数1000万人を超えています。

平成27年度は「淡路花博2015花みどりフェア」開催により、過去最高の約84万人が訪れました。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で約27万人まで減少しましたが、令和4年7月にシースケープ・ラウンジエリア「アクアイグニス淡路島」の開業もあり、令和5年度には約64万人が訪れました。



令和4年度～令和6年度の公園利用実態



防災拠点としての公園利用

淡路地区は、兵庫県地域防災計画(令和6年11月版)において広域防災拠点として設定されています。平成27年3月1日には、自衛隊が迅速かつ適切な災害派遣活動を行う広域防災拠点として淡路地区を活用することを目的とした、「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を締結しました。



ヘリ発着訓練

再生可能エネルギーの活用

令和7年7月から園内に設置されているカーポート型「太陽電池発電施設」から再生可能エネルギーの供給を受けています。令和4年4月、淡路市等が、環境省から「脱炭素先行地域」として選定を受けて取り組んでいる「淡路市におけるコンパクトシティ × 里山ハイブリッド脱炭素化モデル事業」の一環として実施されているものです。



太陽電池発電施設

上空からの写真



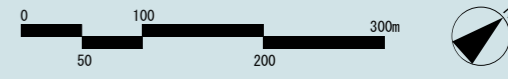
[平成30年3月撮影]

国営明石海峡公園淡路地区(計画面積96.1ha)

淡路地区 整備計画

経緯

平成 6年度	明石海峡公園基本計画策定 淡路・東浦都市計画公園9.6.1号淡路島公園 (国営明石海峡公園(淡路地区))都市計画決定
平成 7年度	国営明石海峡公園(淡路地区)工事着手
平成 11年度	国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」開催
平成 13年度	第1期開園(30.1ha/文化交流ゾーン、海岸ゾーンの各一部)
平成 15年度	第2期開園(6.2ha/移ろいの庭、芝生広場) 第14回全国「みどりの愛護」のつどい開催
平成 16年度	第3期開園(0.9ha/ビジター棟、淡路ロケート棟、芝生広場大型複合遊具)
平成 18年度	累計入園者数100万人を達成(淡路地区)
平成 21年度	累計入園者数200万人を達成(淡路地区)
平成 22年度	淡路花博2010「花みどりフェア」を開催 第4期開園(2.3ha/淡路口駐車場、9号園路)
平成 23年度	累計入園者数300万人を達成(淡路地区)
平成 25年度	累計入園者数400万人を達成(淡路地区)
平成 26年度	淡路花博2015「花みどりフェア」を開催
平成 27年度	累計入園者数500万人を達成(淡路地区)
平成 28年度	第5期開園(0.9ha/淡路口駐車場、細園路等) 累計入園者数600万人を達成(淡路・神戸地区)
平成 29年度	国営明石海峡公園基本計画改定
平成 30年度	累計入園者数700万人を達成(淡路・神戸地区)
令和 2年度	Park-PFI 事業公募設置等計画の認定(シースケープ・ラウンジエリア) 淡路花博20周年記念「花みどりフェア(春期)」を開催
令和 3年度	累計入園者数800万人を達成(淡路・神戸地区) 淡路花博20周年記念「花みどりフェア(秋期)」を開催
令和 4年度	第6期開園(2.7ha/シースケープ・ラウンジエリア)
令和 5年度	累計入園者数900万人を達成(淡路・神戸地区) 国営明石海峡公園基本計画改定
令和 6年度	累計入園者数1000万人を達成(淡路・神戸地区) 第7期開園(0.4ha/淡路口駐車場の一部) 淡路花博25周年記念「花みどりフェア」を開催 累計入園者数1000万人を達成(淡路地区)
令和 7年度	第8期開園(3.7ha/シースケープ・フィールドエリア)



凡例	
記号	名称
	都市計画決定区域 (96.1ha)
	供用区域 (47.2ha)

淡路地区の見どころ



淡路地区の魅力 その1

海に面した淡路地区では、公園内のいたるところで海の景色が楽しめます。月のテラス、空のテラス、海のテラスなど、大阪湾や紀淡海峡を一望できる眺望スポットがいくつもあります。



淡路地区の魅力 その2

いくつものスライダーや空中ネット、夏場の水遊びなどが人気の大型複合遊具「夢っこランド」、ユニバーサルデザインを取り入れた大型遊具「子どもの森」、スワンボートに乗って水路を巡る「花の中海」など、様々な遊具施設があります。



淡路地区の魅力 その3

チューリップ、ユリ、アジサイ、ヒマワリ、コスモスなど、年間を通して四季折々多くの花々をご覧いただけます。公園ボランティアによるフラワーガイドツアーや専門家による花の講習会なども開催しています。



淡路地区の魅力 その4

年間を通して季節毎に多彩で楽しいイベントを開催。園内の自然素材を使ったクラフト教室や、自由研究に役立つ展示、体を動かして遊ぶスポーツイベントなどを実施しています。淡路市夏まつりなど、大規模な地域交流イベントの会場としても活用されています。



国営明石海峡公園 海岸ゾーン 「シースケープ・ラウンジ」エリアの概要

■ Park-PFI（公募設置管理制度）の取組

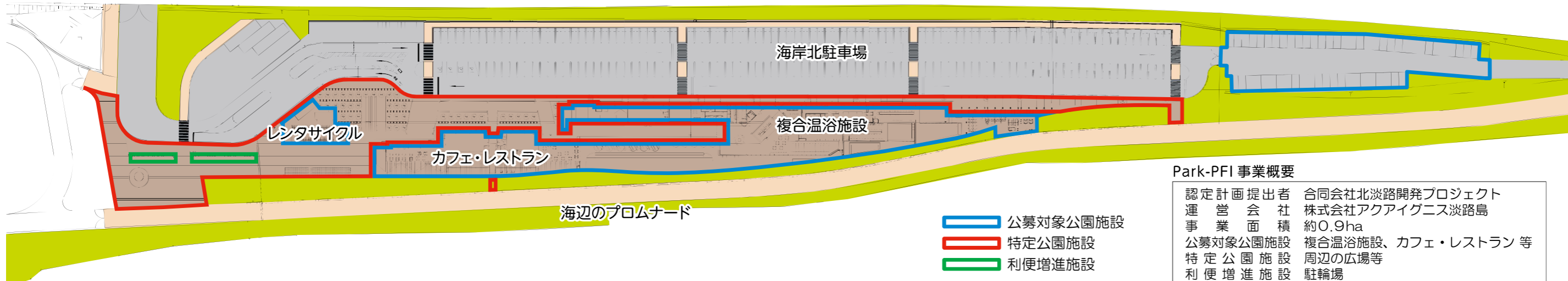
国営明石海峡公園淡路地区海岸ゾーン「シースケープ・ラウンジ」エリアにおいて、平成30年度にPark-PFI事業者を公募し、令和2年度に国営公園では全国で初めてのPark-PFI事業計画（公募設置等計画）を認定しました。

官民連携により、民間事業者（認定計画提出者）が「食と健康」をテーマとした複合温泉施設、カフェ・レストラン及び施設周辺の広場等を整備し、公園管理者がプロムナードや駐車場等を整備。令和4年7月、「シースケープ・ラウンジ」エリア（約2.7ha）とPark-PFI施設「アクアイグニス淡路島」を供用開始しました。

平成30年 4月	官民対話（マーケットサウンディング）調査結果を公表
7月	淡路地区海岸ゾーン民間活用検討委員会を設置
10月	Park-PFI活用に向けて民間事業者を公募（公募設置等指針を公表）
平成31年 3月	淡路地区海岸ゾーン民間活用検討委員会で提案を審査
令和 元年 5月	Park-PFIの事業予定者（公募設置等予定者）を選定
令和 2年11月	Park-PFIの事業計画（公募設置等計画）の認定
令和 3年 6月	Park-PFI施設が工事着手
令和 4年 7月	シースケープ・ラウンジエリア及びPark-PFI施設を供用開始

Park-PFI（公募設置管理制度）とは

平成29年の都市公園法改正で創設された、都市公園における民間資金を活用した整備・管理手法。飲食店や売店等の公園施設（公募対象公園施設）を設置・管理する事業者を公募により選定。事業者は収益を活用して、周辺の園路や広場等（特定公園施設）を一体的に整備。



Park-PFI 事業概要	
認定計画提出者	合同会社北淡路開発プロジェクト
運営会社	株式会社アクアイグニス淡路島
事業面積	約0.9ha
公募対象公園施設	複合温泉施設、カフェ・レストラン等
特定公園施設	周辺の広場等
利便増進施設	駐輪場



平成29年11月



令和4年7月



海辺のプロムナード

神戸地区

計画面積 233.9ha 供用面積 46.2ha

コンセプトは「里地里山文化公園」

大都市の近郊で、里地里山文化を体感できる公園づくりを行います。



（昭和50年撮影）

基本テーマ

土地の歴史・文化を含めた自然環境を保全し、自然との共生を中心とした伝統的な自然観を継承することによって、いのちの賑わいが豊かな「里地里山文化公園」を目指します。

1. 歴史・文化を含めたこの土地の里地里山の景観を、新たな技術の導入や、地域住民をはじめとした多様な主体との連携により、継承していくことを目指します
2. 国際都市神戸に位置することから、自然と人との共生という伝統的な日本人の自然観を海外の人々にも発信し、広域的な観光客の取りこみを目指します
3. 誰もが利用できる都市公園というレクリエーションの場を活用して、里地里山文化を体感できるとともに、大規模な里地里山を「動態」として保全し、これを継承していく際のモデルとなる公園づくりを目指します
4. 里地里山における自然共生型の暮らしを継承するとともに、次世代を担う子どもたちが、自然を体験・学習する場とすることを目指します

ゾーニング



- 棚田ゾーン** 棚田などの里地里山景観を保全・継承しながら、里地里山の生活技術や歴史・文化を継承します。
- 森のゾーン** 里山の自然の中で、幅広い世代の余暇活動や自然環境の大切さを学習する場とします。
- 自然保全ゾーン** 管理と利活用のバランスを保ちながら、多様な動植物の生息・生育環境を保全します。

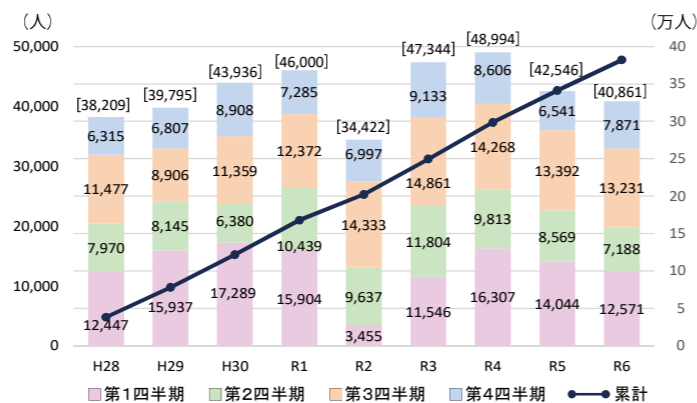
整備状況

平成28年5月28日に主に棚田ゾーン（41.3 ha）を供用開始し、令和7年6月現在、計画面積の約20%となる46.2 ha を開園しています。森のゾーンの施設整備を重点的に進めるとともに、自然保全ゾーンにおける里地里山の保全・活用に取り組んでいます。

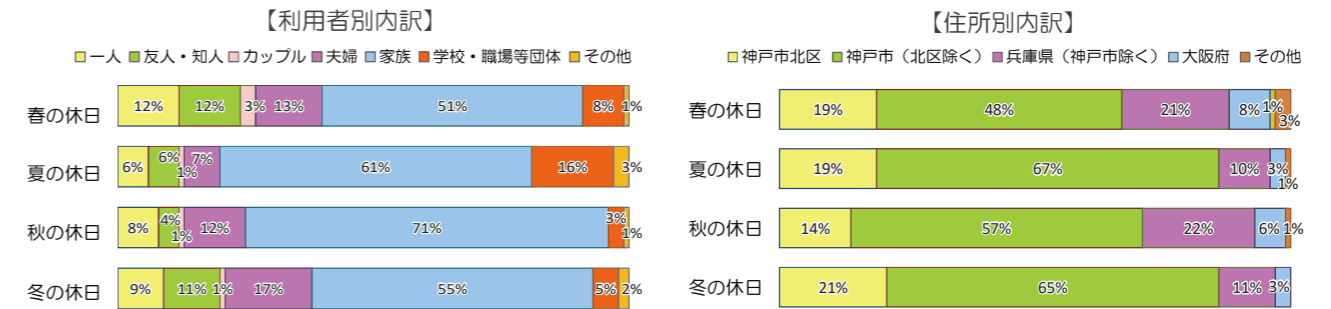
利用者数

平成28年5月の第Ⅰ期開園以来、市民参加による多様な里山体験プログラムの展開により入園者数は増加傾向にあり、年間入園者数は約4万人となっています。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で入園者数が減少しましたが、令和4年度は過去最高となる約4万9千人が訪れました。令和6年2月から水曜日を休園日としたことにより入園者数が減少していますが、積極的にイベントを実施するなど、入園者数の増加に取り組んでいます。



令和4年度～令和6年度の公園利用実態



上空からの写真



里山環境の保全

里山風景を維持・向上するため、樹林・草地の適切な管理を行います。樹林地・水田跡地・ため池などに適正な管理の手を加えて里山環境の維持向上を図り、茅場の再生や野草などの生物の保護・増殖に取組み、公園の魅力向上を図ります。神戸地区に見られる貴重な植物の多くは、雑木林、畔草地、ため池、湿原などのピオトープに対し、下草刈り、落ち葉かき、刈り払いなどの生産管理による定期的かつ継続的な人為影響によって維持される環境下で生息している種です。



茅場の再生（ススキ苗の植付け）

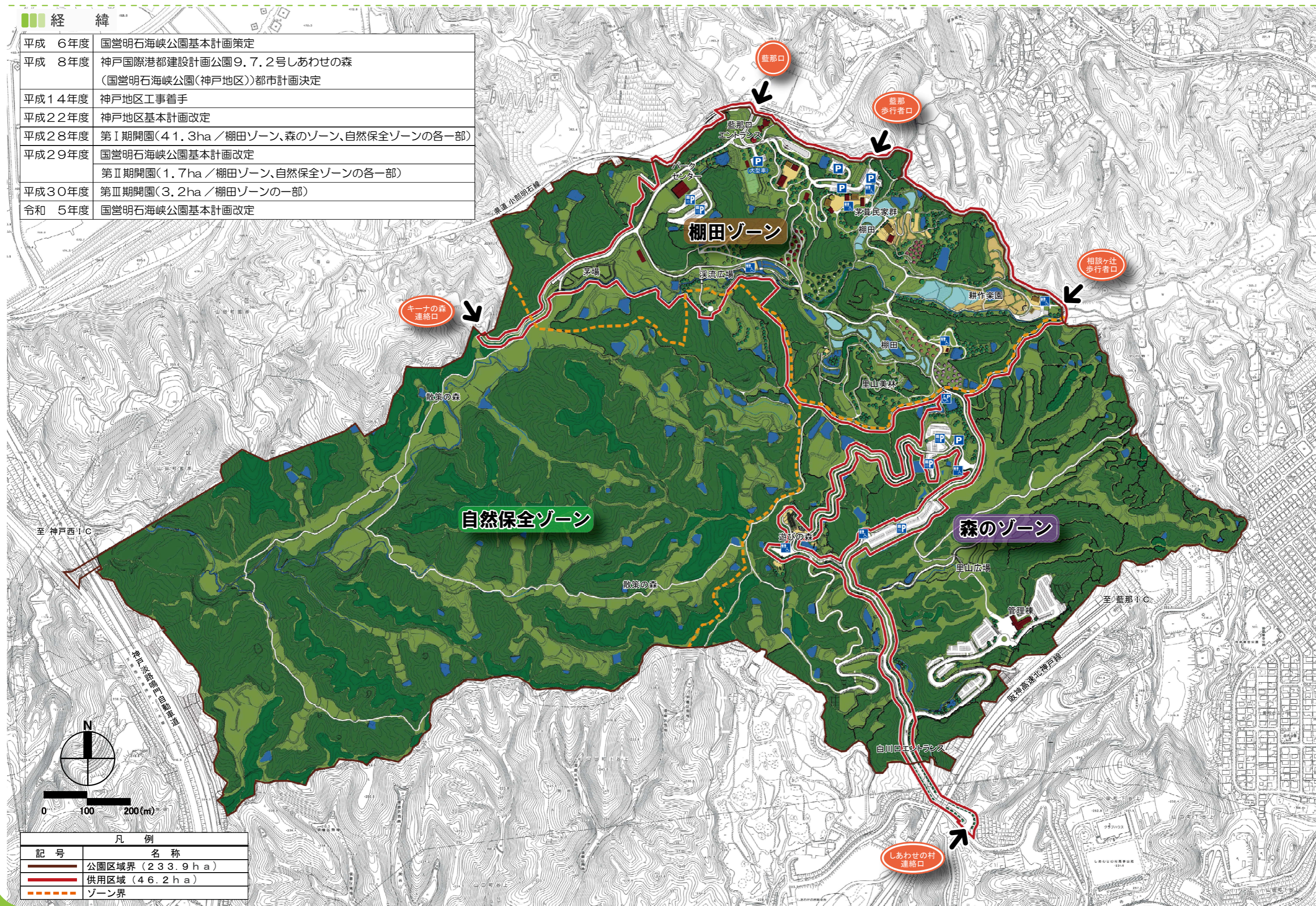


当公園の正式名称は「国営明石海峡公園神戸地区」ですが、多くの方々から「あいな里山公園」の名で呼ばれています。これは、所在地である藍那と里山保全活用型の公園を目指す事から用いている愛称です。

神戸地区 整備計画

経緯

平成 6年度	国営明石海峡公園基本計画策定
平成 8年度	神戸国際港都建設計画公園9.7.2号しあわせの森 (国営明石海峡公園(神戸地区))都市計画決定
平成14年度	神戸地区工事着手
平成22年度	神戸地区基本計画改定
平成28年度	第Ⅰ期開園(41.3ha / 棚田ゾーン、森のゾーン、自然保全ゾーンの各一部)
平成29年度	国営明石海峡公園基本計画改定 第Ⅱ期開園(1.7ha / 棚田ゾーン、自然保全ゾーンの各一部)
平成30年度	第Ⅲ期開園(3.2ha / 棚田ゾーンの各一部)
令和 5年度	国営明石海峡公園基本計画改定



凡例	
記号	名称
	公園区域界 (233.9ha)
	供用区域 (46.2ha)
	ゾーン界

神戸地区の見どころ

神戸地区は、伝庫の家や白拍子の家などの茅葺き民家を移築し、農村舞台の再生等により小規模な農村集落を再現しており、里地里山の学習や素材を生かした体験ができる里山交流館や木工棟、水辺の生きものを観察できるデッキなども整備しています。また、樹林を間伐し手入れした里山林では、足元まで光が差し込む落葉樹林など、四季折々の景色を楽しみながら散歩することができます。



① 木工棟（茅葺・瓦葺）



② 里山交流館



③ 農村舞台



④ 茅葺民家（伝庫の家）



⑤ 茅葺民家（白拍子の家）



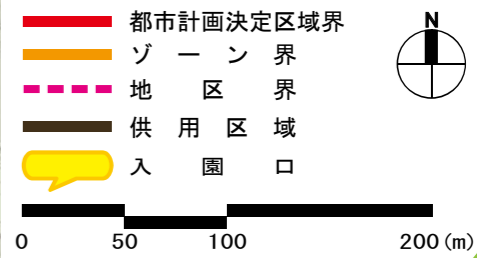
⑥ 茅葺民家（相談ヶ辻の家）



⑦ もも林と里山美林



トラムカー
ゆす号



伝統的な自然観の継承

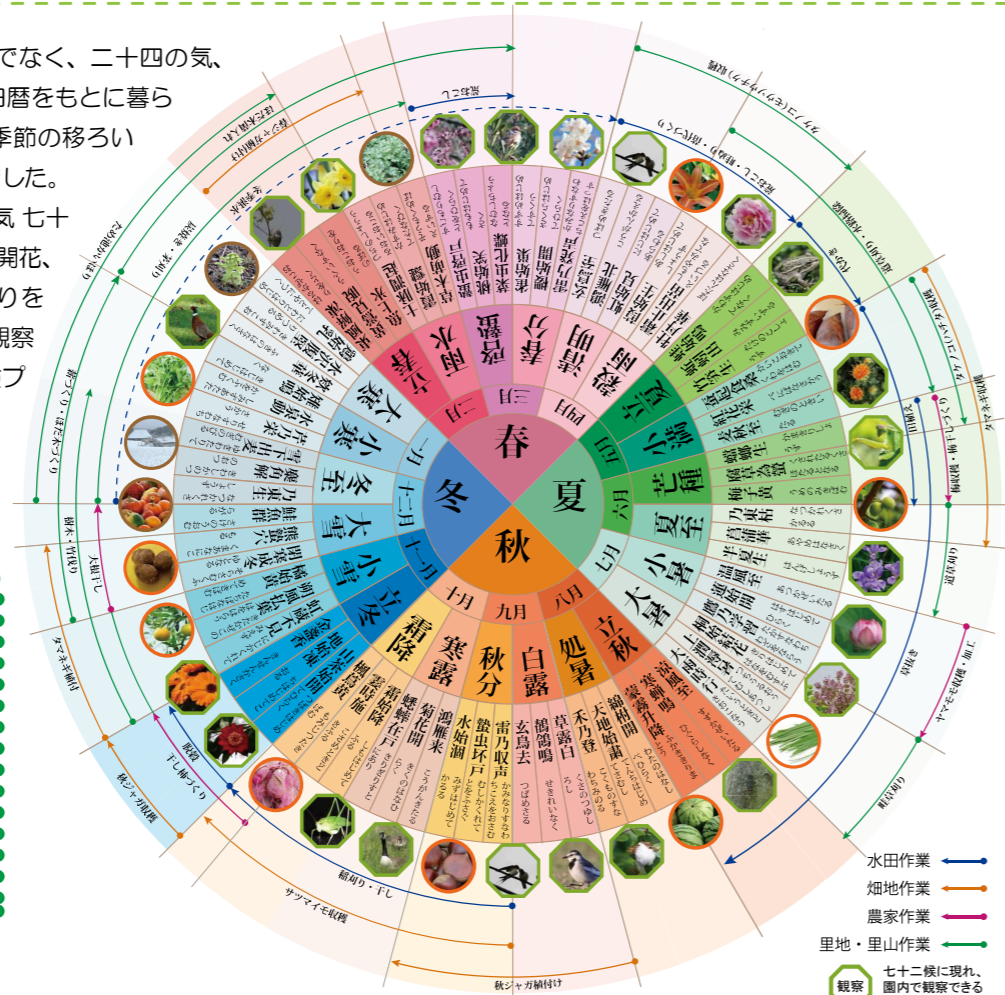
日本には、春夏秋冬の四季だけでなく、二十四の気、七十二もの候という季節があり、旧暦をもとに暮らしていた頃には、人々はそうした季節の移ろいを細やかに感じとって暮らしていました。

あいな里山公園では、“二十四節気七十二候”で表される季節の節目や花の開花、虫や鳥の出現など自然の移り変わりを感じながら、農作業や収穫、自然観察や里山の暮らしなどさまざまな体験プログラムをお楽しみいただけます。

“二十四節気七十二候”ってなに？

二十四節気は、太陽の年周運動を15度ごとに刻んで24に等分し、約15日間のそれぞれの季節にふさわしい名前をつけたものです。

二十四節気をさらに3つに分けたものが七十二候で、約5日ごとに自然現象や動植物の変化を表し、季節の移り変わりをより詳しく教えてくれます。



※この図は「日本の七十二候を楽しむ」(東邦出版)を参考に編集したものです

体験プログラム(例)

季節	春			夏			秋			冬															
	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月													
二十四節気	立春	雨水	啓蟄	春分	清明	穀雨	立夏	小満	芒種	夏至	小暑	大暑	立秋	処暑	白露	秋分	寒露	霜降	立冬	小雪	大雪	冬至	小寒	大寒	
農と収穫																									
自然観察																									
里山の暮らし																									
里山管理																									

里山体験

神戸地区では、畑での草取りや野菜苗の植え付け、種まき、間引き、収穫作業などを、茅葺民家や広場では野草茶づくりや収穫物の加工、薪づくりなど、時季に応じた作業と収穫を体験することができます。作業に取り組んでいただいた方には、少量ですが収穫物を持ち帰りいただけます。



環境学習

神戸地区は、近隣の小中学校を中心とした学校団体による環境学習や総合学習の支援の場として利用されており、農作業体験や生きもの観察などのプログラムを実施しています。



市民協働による公園づくり

神戸地区では、開園前の整備段階から多くの市民活動団体との協働による公園づくりに取り組んでおり、令和7年7月現在、15の団体が活動しています。耕作、樹林管理作業、自然観察・環境調査等の活動のほか各団体の個性を活かした里山体験プログラムを来園者に提供していただいています。

令和4年4月より新規団体の募集を開始し、継続的な市民協働による里山里山文化の発信と継承に取り組んでいます。

